■西川一草亭　　**挿花作家。生涯をかけて，″風流生活″の魅力を語り続け，建築・庭園・茶の湯など幅広く関わった。**
にしかわいっそうてい
大久保暗殺・1878＝　京都市上京区押小路麩屋町橘町で，**_西川源兵衛(去風流六世一葉)の長男に生まれる。**
本名は源次郎。母みよは醤油業の津田家の出。
・・・・・・1880＝ 2歳：弟亀吉(のちの画家津田青楓)が誕生。
明治14年政変1881＝ 3歳：
西川家は幕末の大火で一切を失い，維新で支持者も鮨なって，窮乏するなか，父は懸命に家名を維持，

秩父事件・・1884＝ 6歳：京都市柳池尋常小学校に入学し，

国民之友始・1887＝ **9歳：**

帝国議会始・1890＝12歳：卒業。商家の小僧として1年過す。
足尾鉱毒始・1891＝13歳：近隣の四条派の画家竹川友広について運筆の手ほどきを受ける。
大本教・・・1892＝14歳：第二高等小学校を卒業後，三条室町の千吉で一年間行儀見習。
青楓とは性格が正反対だったらしいが，兄弟揃って，隣家の袋師土田友湖から影響を受け，
日清戦争始・1894＝16歳：
日清戦争終・1895＝17歳：漢学者山本章夫の塾に通い，漢学漢詩と本草学を学び，同門の日本画家木島桜谷と知り合う。
白馬会・・・1896**＝18歳：**
八幡製鉄始・1897＝19歳：美術熱が高まり，近所の親友らと議論。弟青楓とともに，建仁寺，天竜寺で禅に傾倒。近郊の史跡を探索，学習。**_父から茶道の作法を習い始め，他の去風流門人達などにも茶を学ぶ。**
Bushidou・・1899＝21歳：友湖の茶に呼ばれた時の記録「喫茶余筆」がある。

田中正造直訴1901＝23歳：**_父の去風流儀の花の生け方に対し，自然風の花を摂取すべく反論。**
文学と美術に耽溺し，
日比谷公園・1903＝25歳：読書日記(「花うり日記」)をつけ始める。とくに図案に興味を抱いて，
日露戦争始・1904＝26歳：弟青楓が出征すると，頻繁に手紙往復。***浅野古香，青楓とともに小美術会を結成。芸艸堂から図案雑誌{小美術}をより発刊，浅井忠を訪問して相談格として迎えるも，6号で廃刊。挿花教授をはじめ，浅井忠が入門，以後明治年間に幸田露伴ら三十余名。**
日露戦争終・1905**＝27歳：**妹うたが結婚。祖母のぶが死去。一時目を病む。祇園の有楽館で開かれた戦勝記念絵葉書陳列会の装飾を担当。浅井忠の依頼で関西美術展覧会場に奇抜な挿花。「花話」の熱筆を始めるが，生け花師匠に疑問抱き，
満鉄発足・・1906＝28歳：弟青楓が除隊。「花話」は中断。浅井忠から勧められ，南禅寺で去風流正風社花会，「花うり日記」を止め，
韓国反日暴動1907＝29歳：「一草亭日記」を始める。**_{京都日出新聞}に「僕の美術論」を投稿し掲載され，続いて{ホトトギス}，**
ｱﾗﾗｷﾞ創刊・ 1908＝30歳：柿谷勧蔵三女はると結婚。**_{読売新聞}などに投稿。**
伊藤博文暗殺1909＝31歳：長女はつが誕生。
大逆事件判決1911＝33歳：青楓を介して**_夏目漱石とはじめて対面。以後，漱石の没するまで交友，風流への理解が深まって行く。**
明治天皇没・1912＝34歳：次女雪が誕生するも死去。朝日新聞に出た漱石の「文展と芸術」を巡ってと論争。
大正政変・・1913＝35歳：三女登美(のち九世一泉)が誕生。**_父が死去し，去風流を継承。**
第一次大戦始1914**＝36歳：**父の一周忌追善花会。
21ヶ条要求・1915＝37歳：四女文子誕生。入洛した漱石と文学を語り画を描く。鴨東の清風荘に西園寺公望を訪ね，閑居を慰める。
民本主義・・1916＝38歳：長女はつが死去。**_漱石が死去。南禅寺畔染谷氏別荘で花会を開催，{日出新聞}に記事が掲載される。京都美術倶楽部で，西行・光悦らの所作を踏まえた「擬古人挿花展覧会」を開催。**
ロシア革命・1917＝39歳：***「去風洞制規六ケ条」を定め，評議員会を組織し，{去風洞社報}を発刊。去風洞で生初会を開き，続いて木屋町の大嘉楼で新年会をして，以後恒例となる。また著名人邸宅なども含む洛中の処々で，去風忌，花会，大会，研究会などを開くようになるなど，普及のシステムを構築し始める。**
本格政党内閣1918＝40歳：西園寺公望より「花裏神仙」の書幅。嵯峨の三松園で，蕪村の俳句に因む花会を催し，「百花図巻」。
大暴落・・・1920＝42歳：3年前に入門した九条武子の東上で送別会。大阪市東区浮世小路の岩木邸に**_大阪稽占所を設置。**
原敬首相暗殺1921＝43歳：五女雛子が誕生。妹うたが死去。東京三越で花会，千種屋で，去風流好みの花器指導し販売。
水平社結成・1922＝44歳：五彩窒より**_「一草亭画譜」刊行。**
関東大震災・1923**＝45歳：*独自の生け花の見方と方法も確立して，サンデー毎日叢書第一編「生花の話」刊行，**
護憲三派圧勝1924＝46歳：**_生初会を京都美術倶楽部へ変更して，京都ホテルで新年会。東京市麹町の加賀邸に東京稽告所を設置。**
円本時代始・1926＝48歳：**_天明の火災で焼失した流祖去風の花堂{一時庵}を洛東浄土寺に再興し，流祖の木像を安置。大阪放送局より「秋の生花」放送。和辻哲郎，青楓らと，{一時庵}で漱石忌を営み，遺墨を展観。**
金融恐慌・・1927＝49歳：大阪放送局より「御慶事を寿ぎまつる生花に就て」放送。雑誌{新建築}に去風洞建築物の紹介記事。
共産党事件・1928＝50歳：京都美術倶楽部で，室町時代より現代に至る「挿花時代展覧会」を催し，図録を発刊。九条武子死去し，京都，東京で追悼追悼花会。東京三越で「漱石の書と花の会」。**_漱石亡き後も，唯一人風流を標榜し続け，**
海軍軍縮条約1930＝52歳：東京三越で，育楓と日本画展を開き，画集を刊行。**_{去風洞社報}を挿花専門雑誌{瓶史}と改題し発行。**
満州事変・・1931＝53歳：大阪三越で，第二回日本展を開き「第二画集」を刊行。以後，**_いくつかの邸宅の庭を設計。和辻哲郎を訪問し，庭の話。東京品川の吉川子爵邸内茶室{琅?亭}が竣工。実業之日本社より「茶心花語」を出版。{瓶史}を挿花・茶の溝・庭園・建築など日本趣味の碍究を主眼とする季刊雑誌として一般にも販売するに至る。**
五一五事件・1932**＝54歳：**痔の手術。奈良に志賀直哉を訪問。{琅?亭}に長谷川如是閑，野上豊一郎，谷川徹三らを招いて茶会。家族で，富士五湖，岐阜の養老の滝や鵜飼見物，また丹波周山に遊ぶ。**_第一書房より「風流生活」出版。**
国際連盟脱退1933＝55歳：重森三玲来訪。津田青楓検挙されるも釈放。流祖生花図集「花林清賞」を刊行し，社中同好に頒布。**_創元社より「風流百話」出版，{キング}に写真と紹介記事掲載，京都放送局より「高慢と茶人の佗」放送。**
帝人疑獄事件1934＝56歳：三女登美の媒に柳山玄成次男?を迎え養子縁組。藤井乙男，新村出らと「椀記」の座談会を始め，以後十年にかけて続行，{瓶史}に掲載。東京麻布の古河男爵邸で第一回東京大会を開催，花道の回顧と展望を意図した展観を行う。「庭の話」放送。堀口捨己や荻原井泉水が来訪するなど，**_サロンの主宰者のようになり，**
芥川直木賞始1935＝57歳：{琅?亭}で茶会を催し，幸田露伴，有島生馬，堀口捨己らを招く。アメリカ庭園協会会員の来日に際し，国際文化振興会の依頼により京都美術倶楽部で「小庭園展覧会」を開き，翌年，創元社より図録「盆庭と盆石」を発行。青楓の媒酌で四女文子が結婚。「一草亭第三画集」刊行。東京の酒井伯爵邸で「一花一墨会」催し，高松宮同妃両殿下御来遊。鎌倉の前田侯爵別邸長楽山荘に侯爵を訪問。**_数寄者の生き方に徹した生涯のうち，**
二二六事件・1936＝58歳：妻，雛子と一緒に満州，朝鮮へ旅行。母が急逝。対嵐房へ向かう途中，吹雪で自動車が激突，胸骨を折り絶対安静三週間。国際観光局より「Floral Art of Japan」出版。前田侯爵が来訪，墓所の庭の設計を依頼され大徳寺芳春院へ同行，完成は没後。長楽山荘内松濤庵の庭が完成。「茶室の庭，来迎寺の庭」を放送。
日中戦争始・1937＝59歳：鎌倉の前田侯爵別邸長楽山荘の庭園完成し茶会主宰。洛北修学院赤山鳥居前の花園の草庵が竣工し，「島居茶屋の記」を作る。高台寺の津田邸の作庭。胃を病み，健康悪化，京都府立病院に入院。
健保+総動員 1938＝60歳：病床で漢詩を作り，翌年「一草亭詩存」発行。退院して養生，***病床で「風流一生涯」と大書後，病状急変し，肝臓癌のため没した。**
京都の了蓮芋内流祖墓地のほとりに埋葬される。

淡交社「西川一草亭」，